

Small Talk台本（第3時・第4時のはじめ5分）

進め方（外国語活動）：帯活動として単元の後半に2回。4年は先生の話聞くことが中心で、ペアは2回目だけ30秒×2回（相手を替えて）。1回目のペアのあとに中間指導（下の「ことばの補給」）を挟む。なりきりではなく先生の好きな小文字と、先生の物で話す。

話題1 先生のひみつの小文字（第3時）

板書：Hint, please. Tall? Short? Down? [ふせた小文字カード1枚・3つのへやの絵]

T Hello, everyone! I have a secret letter. A small letter. Guess!

みんな、こんにちは。ひみつの小文字が1つあります。あててね。（カードを胸にふせて）

S Hint, please!

ヒントをください。（板書を指さして、全員で1回言ってから）

T Hint one. It goes down. Hint two. It has a dot.

ヒント1：下にさがる（手を下へ）。ヒント2：点がある（人さし指で点）。

S j!

j！（文字の名前1つで十分。g? y? と出たら Sorry! と言って、ヒント2をもう一度）

T Yes, j! Like a fishing hook! What letter do you like?

そう、j！ つりばりみたい（まね）。どの小文字がすき？（答えた文字を全員でジェスチャーで分ける）

つまった子への助け舟：カード2枚で j? y? と聞き、指さした方を先生が言い直す。

話題2 先生の物にかくれた小文字（第4時）

板書：Look! ~! Tall? Short? Down? [ものさしの cm・お米のふくろの kg]

T Look! My ruler. Small letters! What letters?

見て。先生のものさし。小文字があるよ。なんの文字？（ものさしのはしの cm を指さす）

S c! m!

c! m!（全部言えなくてよい。指さしだけでもよい）

T Yes! Thirty centimeters! Look! Five kilograms. What letters?

そう、30センチ！ こんどはお米のふくろ。5キロ。なんの文字？（kg を指さす）

S k! g! Tall! Down!

k! g!（k は手を上へ・g は手を下へ。ジェスチャーだけでもよい）

T Great! Now, take out your ruler. Find small letters. Look! c, m!

すごい！ ペアで、ものさしや教室の小文字を Look! →相手は Wow!（30秒×2回・先に見本）

つまった子への助け舟：名前が言えない子は、指さすだけでよい（相手が先生が名前を言って返す）。



中間指導 1回目のあとに全体で（ことばの補給）

第4時のペアの1回目のあとに全体で：「小文字を見つけた人？」と聞いて手をあげてもらう。→「見つけた文字は、どのへや？」と聞き、板書の Tall? Short? Down? を指さして、3つのジェスチャー（手を上へ・胸の前で横に・下へ）といっしょに全員で2回言う（第3時のせいぐらべの3つのなかま）。ふやすのはこの返し方だけ。→ 相手を替えて2回目は、見つけた側が Look! g! → 相手が Down!（ジェスチャー）と返す。おわりに「いちばん多く見つかったのは、どのへや？」をたずねる（このあとの身の回りの小文字さがしへ）。

対話を続けることば 黒板横に掲示しておく

はじめる	Hello!
くり返す	j? j!（あいての言葉をくり返す）
ひとこと感想	Nice! / Wow!
たしかめる	Pardon?
ヒントをもらう	Hint, please.
見つけた！	Look! c, m!（ゆびさして教える）
おわる	Thank you. / See you!

先生へ

- ・4年の Small Talk も先生の話聞くのが中心。第3時はペアにしない（ヒントで当てる→すきな小文字を全員でジェスチャーで分ける＝このあとのせいぐらべの入口）。第4時のペアも30秒×2回で十分
- ・j とヒント2つは、先生のすきな小文字と見立てに差し替えてよい（Word版で書き換えられる）。ヒントの1つ目は「へや」（上に出る・下にさがる）にする＝せいぐらべの3つのなかまを先に耳に入れる。b・d・p・q をひみつの文字にしない（4年では見分けを深追いしない）。文字は読ませず、名前を言うだけ
- ・第4時は先生の本物のものさしとお米のふくろ（か、その写真）。cm と kg は算数で使っている記号＝英語の小文字だと気づくのがこの話題のねらい。子どもが出すのは算数のものさしだけ（ほかの持ち物は出させない＝持ち物の差が見える）。音声は先生と子どもの声で、話題ごとに1本ずつ